

U-20 東アジア競技大会

報 告 者：松本 直也

ファシリテーター：廣田 景一

「大学サッカーだから出来ること」

- ・セカンドライフへの繋がり。
- ・サッカーが終わった後の人生への繋がり。(資格などを取得することによって)
- ・自主性、自分次第でよくも悪くもなる。
- ・プロではできない人間関係の形成をすることによって人間の幅を広げる。
- ・サッカーだけでなく人としての成長も出来る。

「自分の成長に邪魔するものとは」

- ・生活面、勉強面
- ・自由な時間ができることによる様々な誘惑
- ・自分自身の弱さ
- ・下宿等での友人が増え、自分にとって良くも悪くもある。

以上の意見が選手から挙げられた後、島岡健太氏・朴成基氏から大学サッカーの存在価値を、自分の経験を通して話して頂いた。

島岡健太氏

「大学生活はやり直しが何度でもきく良くもあり、悪くもある時期。決められたルールの中での自由でいかに楽しむかが重要。関西の学生サッカーをさらに良くしていくには、色んな意味で、もっと危機感を持たないといけない。」

朴成基氏

「大学生活は社会に出るまでの予行演習期間であり、子供のように大人で大人のように子供、責任があるようでなくないようである時期なので、何度も様々な事にチャレンジしていくべきである」

記録者兼参加者：清田勝、田中尚志